

広島大学大学院 文学研究科

第2回「文藝学校」講演会

国立大学は本年4月から法人化され、各大学の独自性もこれまで以上に重視されるようになりました。地域社会との連携も重要な課題のひとつです。

大学院文学研究科では、「表象文化学講座」のメンバーを中心として、「文藝学校」と名づける活動を展開しています。構成員が個々に行う研究を、わかりやすい形で一般の方々に聞いてもらい、文藝の価値や特質、社会における役割等を考えるヒントにしてもらえれば、と願っています。

昨年ひきつづいて講演会を催します。多くの方のご参加をお待ちしております。

(「文藝学校」校長 広島大学大学院文学研究科 教授 位藤邦生)

日時 10月30日(土)

午後2:00～4:00(午後1:30 開場)

場所 本の学校 2階 多目的ホール

★参加料は無料です。

＜整理券を本の学校 郁文塾または今井書店各店でお求めください＞

◆演題：近世和歌から明治短歌へ

講師：久保田啓一<広島大学大学院文学研究科教授>

◆演題：英国の小説家 ディケンズの文学における語り

講師：植木研介<広島大学大学院文学研究科教授>

主催 広島大学大学院文学研究科「文藝学校」・「本の学校」郁文塾

後援 鳥取県教育委員会・米子市教育委員会・米子ユネスコ協会・ITC 米子クラブ・「本の学校」生涯読書をすすめる会

★<整理券を入手しにくい方>電話または fax の申し込みも受け付けます。お気軽にお申し付けください。

お問い合わせ・お申込先…「本の学校」郁文塾 Tel 0859-31-5001 fax0859-31-9231 まで(Tel 受付 10:00～18:00)

広島大学大学院「文藝学校」今回の講義内容

◆近世和歌から明治短歌へ

講師：久保田啓一

(くぼた けいいち:1959 年生まれ。近世の和歌、とくに冷泉家の歴代当主とその門弟とからなる冷泉派歌壇を中心に、歌壇史と表現論の双方から研究を進めている。日本近世文学会 常任委員)

<講師のことば>

佐々木信綱や正岡子規が近世末期の大隈言通や橋曙寛を評価したのは有名ですが、彼らは近世においては全く無名の存在でした。私はあくまでも近世和歌は近世の価値観で評価した上で、明治短歌への展開を考えて行くべきであると考えます。近世和歌と明治短歌の相違点と共通点を、作品読解を通じて見て行きたいと思います。

◆英国の小説家 ディケンズの文学における語り

講師：植木研介

(うえき けんすけ:1944 年生まれ。英国の小説研究、特に作家ディケンズの「作品研究」および彼のジャーナリスト活動・当時のジャーナリズムの文壇地図について、実証的な研究をおこなっている。ディケンズ・フェロウシップ日本支部理事)

<講師のことば>

19世紀のイギリスの小説は長編であることで知られていますが、今回は、彼としては短いクリスマス物の小説の語り方についてお話をし、彼の文学の魅力の一端を紹介します。「クリスマス・キャロル」と「炉辺のコオロギ」の出始めの部分と、あまり知られてはいないのですがとても愉快的なクリスマス物語の枠組みの作り方を見て行きます。